



Go Playing Fellowship of Rotarians

ロータリー囲碁同好会

NEWS LETTER

No. 26

2015年6月8日 発行

HP <http://www.gpfr.jp>

江村六段（盛岡西）12年前を再現

日本棋院で第16回ロータリー国際囲碁大会

中級は山田三段が準優勝（東京銀座新）



ロータリーの友8月号（8月1日発行）に、新藤信之・日本支部長（中央）が執筆して今国際囲碁大会の紹介記事が掲載されます。開会式で壇上に並ぶ大会役員。右から游長和・台湾支部長、楊敏盛・元 GPFR 会長（台湾）、李在允・前 GPFR 会長（韓国）、鈴木孝雄 2580 地区ガバナー。演壇左に石井良昌 GPFR 会長、塚本利光大会実行委員長

米国・ハワイに新支部誕生

新藤信之支部長とハワイ島ヒロ市で調印式

昨年6月1日から4日間に亘ってオーストラリアのシドニーで開催された国際ロータリー年次大会で、友愛広場内のブースの一コマを使用することをRI本部から公式に許可されました。GPFR(国際囲碁同好会)の理事会ではGPFRを韓国、台湾、日本のみならずより多くの国々の参加を願っておいりましたので、このオーストラリアシドニー大会で、GPFRの宣伝と組織拡大を目指すことにしました。

ブースはオーストラリアの囲碁関係者、日本棋院、慶大囲碁OBなど多くの方々の協力を得て、友愛の広場の入り口の角に立派にセットアップされ、百数十人のロータリアンが立ち寄って下さいました。その中にUSAの支部長をお引き受け頂くことになるMR.MRS.YOSHIDAご夫妻もいらっしゃったのです。ご夫妻はブースでの囲碁の対局を興味深げに見入っていました。

MR.YOSHIDAは2004~05年、アラスカでロータリークラブのガバナーを務められた方で、ハワイのロータリアンの中では有名な方です。奥様のMRS.NOBUKO,YOSHIDAさんは、現在はアメリカ国籍ですが純粋な日本人で、教養の高さと知識の豊さを思わせる日本語を話されたり、書かれる方で現在はロータリーのITHF(International Travel Hosing Fellowship)の理事をされておられます。

そのご縁から、今年3月2日には私たちはハワイ島ヒロ空港から山間を縫うように車で30分走り、MR.MRS.YOSHIDAの大邸宅を訪れ、新藤支部長がGPFRについて一晩掛けて詳細に説明、色々なことを話し合いました。その結果、ご夫妻はGPFRの全米支部長の役を快諾され、アメリカ合衆国(USA)がGPFRの4カ国目として正式加盟することになりました。ご夫婦は全米ロータリアンにGPFRへの参画を積極的に呼び掛けることに労を惜しまないとおっしゃられました。

当面は、MR.MRS.YOSHIDAのご自宅をGPFRの全米事務局とさせていただくことになりましたので、ご夫妻の住所連絡先と新規の入会予定者1名の連絡先を記します。

GPFR 理事 金澤拓平 (東京青山)

MR.Steve YOSHIDA & MRS.Steve Nobuko,YOSHIDA

1396 Kalote Pl. HIro Hawaii 96720

Tel (808)-315-7777

Call-phone 1-310-567-8487

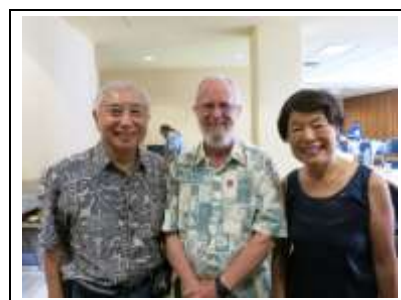
Mail steveyoshida@gmail.com

MR.Christpher Blazey for MR.Douglas

R.BlazeyRI 7450

Governor 2014-15 Pennsylvania

Tel(610)-971-9337



<第16回ロータリー国際囲碁大会結果 >

(2015-5-16 東京市ヶ谷 日本棋院)

上級者クラス(五段以上)

優勝	江村洋弘六段(盛岡西)
準優勝	李 在允六段(韓国大邱東進)
3位	眞下 裕六段(渋川)
3位	金 東完六段(韓国清州上堂)

中級者クラス(二段~四段)

優勝	崔 五永四段(韓国大邱囲碁)
準優勝	山田 鋼三段(東京銀座新)
3位	趙 漢奎三段(韓国大邱囲碁)
3位	柳 貴鉉三段(韓国東清州)

初級者クラス(初段まで)

優勝	申 戌先 7 級(韓国大邱囲碁)女性
準優勝	邱 建中初段(台湾桃園西區)
3位	禹 善淑 5 級(韓国大邱囲碁)女性
3位	鄭 宗模初段(韓国 soul 安岩)

眞下六段(渋川)は世界 3 位に

RI 認定の親睦団体であるロータリー囲碁同好会 (GPFR) 主催の「第 16 回ロータリー国際囲碁大会」(共催第 2580 地区 2750 地区 ホスト東京 RC)は 5 月 16 日 (土)、東京・市ヶ谷の

日本棋院本院大ホールで開催され、12 年ぶりの東京開催とあって日本 53 人、韓国 21 人、台湾 12 人の計 86 人も参加登録があり、国際大会に相応しい盛況となりました。

今大会の方針として、昨年の台湾大会での理事会で簡素化を図る事を申し合わせて①開催日は 1 日のみ②派手な前夜祭は廃止③同伴者のためのミニ観光も取り止め④プロ棋士を招いての多面碁も見合わせる、と決定しました。

この方針で役員会を開いて準備を進めていたところ、上京した石井良昌会長 (尼崎西) から「ミニ観光廃止は同伴する奥様方に失礼なので、自分が観光バス代を持つから実施しましょう」との提案があり、急ぎ話題のスカイツリー見学を企画することになりました。

新藤信之日本支部長 (東京立川こぶし) も「ホテルでの歓迎晩餐会はオーバーだが、海外参加者には駅近くの寿司屋で歓待したい」との意向を示され、宿泊ホテルに近い寿司店に海外参加者限定で 30 人の予約をいれました。

プロ棋士の多面碁は決勝トーナメント進出を阻まれた参加者が楽しみにしている行事なのですが、諸費用を計算すると実行できない事情にありました。

日本棋院からプロ棋士を大会派遣に

そんな折、役員横塚克明初段 (E-club) から「次男がプロ棋士に合格して 4 月にデビューするので、多面碁を相談してみる」というのです。この話を耳にした日本棋院から「GPFR

は囲碁普及に尽力している」として、この大会に多面碁の指導棋士を派遣していただける事

4

があつという間に実現化してしまいました。

ロータリーとは有り難い事で、役員の水野雅生初段（東京銀座新）は印刷業の老舗の社長であることから、プログラムと対戦カード作成にご協力を頂きました。カラフルの素晴らしいプログラムができあがりましたが、校了するまでトンでもないご苦勞をお掛けすることになったのです。毎回のよう、大会中は動画撮影までお願いしました。

大会実行委員長の塚本利光六段（東京京浜）はルールや対局等の大会運営のほか、所属クラブより 4 人の会員に声をかけて頂いて丸一日 SAA のお役目を努めて頂きました。韓国チームのために用意してもらいましたキムチは、昼食も夕食会も好評でした。

スタッフには、石井会長と奥様のほか地元兵庫県内から大会役員 5 人が前夜の設営から駆け付けて頂いて、新藤支部長の所属クラブからも地区役員ら 3 人が大会運営の支えになってもらいました。中でも参加国の小旗を準備したのですが、これを片付けるのに一本一本細い糸を丁寧にテープから剥がしてもらった面倒な作業もお願いして、頭が下がる思いでした。有難うございました。

大会報告の前に裏舞台の話を長々して恐縮ですが、たくさんの方々が大会参加していただいたのです。

米山奨学生の協力もあって、韓国語と台湾語の通訳をお願いして、東京米山友愛 RC の朴貞子さんにソングリーダーもお任せしました。米山の優秀さを改めて実感いたします。大会には、登録外の

スタッフなど 18 人が集まったことで、総計 104 人が参加していただいたことになりました。長くなりまして恐縮いたしますが、このことをいいたかったことなのです。

ルールめぐり、やはりトラブルに

大会は新藤支部長の開会点鐘で始まり、参加国の国歌と「ROTARY」ソング斉唱の後、新藤支部長の歓迎挨拶に続いて、石井会長から「新藤支部長と金澤理事のご尽力によって、GPFR は新たに米国に 4 番目の支部を誕生させました」と、新支部設置(2 ページ参照を)の報告がありました。

来賓に GPFR の本部を置く関係から鈴木孝雄 2580 地区ガバナーをお招きして「16 回の開催は各国の役員と参加するロータリアンの努力と熱意によるもの」との評価を頂きました。

韓国の柳貴鉉三段、台湾の游長和初段の両国支部長から代表挨拶を頂いて、それぞれに通訳が入るため時間をとられ、大会記念の集合写真(次ページに掲載)は全員に起立してもらって壇上から脚立を使って空中写真を撮る要領で短縮化しました。

塚本大会実行委員長から日本ルールにより 30 分の持ち時間制、予選 3 局に決勝トーナメント戦 2 局の計 5 戦との説明があり、委員長の「対局開始」を合図に直ちに対局が始まりました。

今回大会では、登録者のうち対局に臨む参加者は日本 45 人（うち女性 1 人）、韓国 17 人（うち女性 4 人）、台湾 6 人の計 68 人でした。当日飛び込み参加者が 1 人ありました。クラ

ス別では、上級者クラス 29 人、中級者クラス 19 人、初級者クラス 20 人で、午後に行う各クラスの決勝トーナメント戦進出者 4 人を決定する予選が午前 10 時にスタートしました。

5



予選は午前中に 2 局、昼食後にもう 1 局の計 3 局。初級者クラスも原則計時制で行われました。

この 1 局目で早くもトラブルがでました。台湾の初級者が、盤上の石を数える時に並べてある石を音をたててザーと動かしてしまったのです。台湾ルールに慣れたうっかりミスでした。当然、審判長から負けを宣言されました。

台湾ルールは一方の石だけを数えるため、境界内の石を動かしても勝敗には影響しないのです。私は、これまで何度か説明を受けたのですが、台湾ルールをなかなか呑み込めず、毎回台湾大会になると立ち合いの判定員がついて数えてくれることになっています。

韓国については、何度も紹介しているように段位認定は国家レベルの基準があり、勝手に段位を自称できないのです。六段はしかるべき囲碁大会の優勝者のみに与えられ、七段は数回の優勝経験者に認められるもので、日本とは同じ段位では二段差があるといわれています。

このため、午後の予選が始まる際、韓国チームの 7 級で出場した女性参加者に対して、台湾チームから「彼女の 7 級は怪しい。初級者とは思えない。3 級が相当だ」とクレームがでました。

この女性は言われるように強く、その後もトーナメント戦に進出したどころか、決勝戦では台湾の初段を7目置いて30分で片付けてしまったのです。腹が収まらないのが、台湾チームです。彼女は国内では7級認定でも実力が違うので、次回から3級出場でエントリーさせ

るとの約束で、ようやく納得を得ました。国際大会の運営はやはり骨の折れるものです。時間の制約上、決勝戦トーナメント戦は持ち時間を40分に延ばす一方で、3位の決定戦は行わないことにしました。このため、各クラスとも3位は二人となりました。

決勝戦は丁度12年前の対戦がよみがえったのです。その結果も同じになりました。江村六段（盛岡西）は2度目の栄冠で、これより1年間「ロータリー囲碁世界チャンピオン」の称号を名乗ることを認められます。

とはいっても、準優勝の李在允六段はこの大会でこれまで2度の優勝を誇る強者。同時に韓国チームのうち17人を大邱から自費で連れてきて頂いた大物であり、全クラス制覇とならなかった結果にチーム一同を前に苦笑いでした。

日本チームは善戦しました。中級者クラスの準優勝に初出場の山田鋼三段(東京銀座新)が入り、上級者クラスに優勝の江村六段とともに決勝トーナメントに勝ち残ったのが眞下裕六段(渋川)です。準決勝戦で江村六段に破れはしましたが、予選でばく進して注目の人物となっていました。

残念なのは、昨年秋の全国大会で断トツの強さを見せた坂本直樹六段(唐津)が韓国五段に予選2回戦で思わぬ敗北に。「韓国は強いですよ。侮れません」と坂本さんはいいます。

決勝トーナメント戦の隣の会場では、プロ棋士の指導による多面碁が20面も用意されました。

桂篤五段と横塚力初段のお二人にお願いしました。20面もの指導碁は、海外大会含めても初めてです。スタッフとして活躍頂いた役員もこれをチャンスにと碁盤の前に座り、撤収作業を始めようとするスタッフ陣に「少し待って」と遠くから手を合わせて猶予を求める姿も。囲碁好きの集まりですから、マア仕方ないことですね。

表彰式後の懇親会で友情深める

表彰式は日本棋院から徒歩3分のホテルアルカディア市ヶ谷（私学会館）の宴会場に移動して行われました。すべて金色に輝く楯を用意して、計12名の入賞者に授与されました。

この席には、台湾チームの奥様方をスカイツリーと日本橋にご案内したミニ観光組も合流し、表彰式後に全員で記念撮影をしたのですが、カメラに収まりきらずに写真掲載は諦めました。

この大会の様子は水野雅生三段（東京銀座新）が毎回、対局の間に動画を撮影しており、今年10月4日（土）の全国囲碁大会、および来年のRI韓国ソウル大会に合わせた次回ソウル国際囲碁大会の会場で披露されますので、お楽しみに。

表彰式後には懇親会になり、各チームに固まらずに着席していただいたので、大会の趣旨である国際交流と親睦を深める事ができました。（大会事務局長 太田清文）

追記) 役員とスタッフの皆様のご協力ご活躍に深く感謝を申し上げます。有難うございました。日本棋院の先生方にも御礼を申し上げます。

写真は平井收三段(大阪金剛)提供



優勝決定戦は李・江村両六段の日韓対決



3 クラスの優勝者。中央が江村六段。



他面碁ではプロ棋士の指導を受けました。手前が4月にデビューした横塚力初段



中級者クラスの準優勝には山田三段



国際大会で頼りになるのが米山奨学生の皆さん
東京米山友愛 RC の朴貞子さんにソングリーダーまで



懇親会場での韓国チームの女性陣。大邱囲碁 RC 会員で例会は碁盤を囲んでとか



例の前夜祭は経費の都合により新藤支部 長のご負担で海外参加者を招待しました

秋の全国囲碁大会のご案内

「第 14 回ロータリー全国囲碁大会」を下記のとおりで開催いたします。全国大会の参加申込書と振込み用紙を同封しますので、お確かめください。

参加ご希望の方は「参加申込書」にお名前等を明記して F A X (03-3452-1652)でご連絡ください。お問い合わせ等は、F A Xにてお願い致します。ご連絡を受けて、日本支部より F A Xで返信致します。クラブ対抗戦（上位2名の得点制）を行いますので、クラブ内のご友人をお誘いください。ご家族のご参加も歓迎致します。

GPFRR は R I 認証団体ですので、大会参加はメイクアップとなります。

<記>

日時 2015 年 10 月 3 日（土）10 時開会 16 時まで
登録受付 午前 9 時 30 分より
会場 東京・市谷の日本棋院本院 1 階対局室 ルール 3 クラス早碁戦 コミ 6 目半 計時制 登録料 7000 円（賞品、昼食等を含みます）

ロータリアンの囲碁仲間を GPFRR にお誘いください。新規入会のお申し込みは、ご本人の地区、クラブ、氏名、年齢、級段位、紹介者を明記して所属のクラブ事務局を通じて FAX で下記の GPFRR 日本支部宛に送信をお願いいたします。年会費 2000 円。入会金はありません。GPFRR 活動、会則については GPFRR のホームページ <http://www.gpfr.jp> をご覧ください。

年会費を同封の郵便振替用紙（口座番号 00100-0-427835 ロータリー囲碁同好会宛）をご利用のうえ、2015-16 年度会費分として 6 月末までに 2000 円をご送金ください。

また、10 月 3 日（土）の「第 14 回全国囲碁大会」にご参加ご希望の方は同封の郵便振替用紙の通信覧に「全国大会参加」と明記して大会登録料 7000 円を会費 2000 円に加えて計 9000 円を送金してください。参加申し込みを受け取り次第、すぐに大会参加要領を FAX でお知らせ致しますので、ご自宅等のご連絡先の FAX 番号等を必ずお書き添えください。

なお、振込み手数料（100 円）はご負担ください。GPFRR は皆様の会費で運営しておりますので、何卒、会員の増強と会費の納入のご理解とご協力をお願い致します。

